

—カトリカ大学派遣プログラム募集要項—

1. 目的

山形学生を海外の大学に派遣して海外生活を体験させることにより、学生のグローバル化意識の向上を図り、山形大学並びに各キャンパスのグローバル化推進に資することを目的とする。特に、派遣大学で日本語チューターとしての業務を実施することで、グローバル化時代に必要とされる以下の4つの点を身につけることを目的とする。

- ①自分及び自国を知り、理解する
- ②相手及び異国を知り、理解する
- ③状況に合わせて臨機応変創意工夫できる適応力を身につける
- ④優れたコミュニケーション能力を身につける

2. 概要

- (1) 相互理解を深めるため派遣大学の職員や学生等と積極的な交流を図り、自分及び相手を知り、理解する。
- (2) 山形大学と大学間交流協定を締結し、サテライトオフィスを設置しているカトリカ大学において現地の学生を対象とした山形大学日本語教室で「日本語チューター」として日本語を指導し、臨機応変創意工夫できる適応力を習得し、コミュニケーション能力を習得する。
- (3) なお、本年度は試行的に実施する。

3. 日程

事前学習会	出発日	帰国日
2月18日(火)	3月18日(火)	3月27日(木)

4. 募集人数・応募条件

以下の条件を満たす8名を募集する。

- ①山形大学に在籍する学部学生及び大学院生
- ②事前説明会を含めた全日程に参加できること
- ③派遣決定後、事前リサーチや事後レポート等の課題を提出できること
- ④滞在中、健康面を含めた必要な自己管理が出来ること
- ⑤帰国後、報告会等の本プログラム情報発信に協力できること

※本プログラムは山形大学及び各キャンパスのグローバル化に資することを目的にしていることから、卒業見込みの者は対象外とする。

5. 経費負担

- (1) 派遣学生には渡航費用として、山形大学が10万円を支給する。
- (2) 現地における派遣学生の宿舎は、山形大学が確保し提供する。
- (3) 上記(1)(2)以外の経費は、全て派遣学生の個人負担とする。

6. 申請方法

学生は別紙様式1「カトリカ大学派遣プログラム申請書」を所属学部の学務担当へ提出する。学部長は、派遣希望学生のグローバル意欲を勘案の上、国際交流担当理事に推薦する。

- ※申請者は、必ず担当教員またはアドバイザー教員に相談の上、署名押印をもらうこと。
- ※工学部及び農学部の1年生は、小白川学生課留学支援担当へ提出してもよい。

7. 申請締切

平成26年1月28日(火) 渉外部国際交流室必着

8. 選考基準・結果通知

次の基準に基づき、書類審査及び面接にて国際交流担当理事が選考し、所属部局長あて通知する。

- ①グローバル社会をより深く理解する意欲のある者
- ②諸外国の大学生及び職員等と積極的に交流を図る意欲のある者
- ③充実した交流計画を作成している者
- ④山形大学グローバル化のために取り組む意欲のある者
- ⑤日本語教育に関心のある者

(1) 第1次選考：書類審査

選考結果は平成26年1月31日（金）までに、メールにより申請者本人へ通知する。

(2) 第2次選考：面接考査 平成26年2月3日（月）もしくは2月4日（火）16：30～

選考結果は平成26年2月12日（水）までに、メールにより申請者本人へ通知する。

※rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jpより送られるメールを受信できるように設定すること。

9. 事前事後学習

派遣学生は、事前学習会に必ず参加の上、課題の提出を行う。

また、プログラム終了後2週間以内に「カトリカ大学派遣プログラム学習報告書」を国際交流室に提出し、報告会等において、活動状況を報告する。

10. 渡航準備について

以下の点について、必ず各自で手配するものとする。

(1) パスポート・ビザ

ペルー入国の際、パスポートの残存有効期間は日本帰国時までであればよい。しかし、北米を経由する航空便でペルーに入国する場合は、6ヶ月以上の残存有効日数が求められる。そのため、ペルー滞在日数プラス6ヶ月以上の残存有効期間が必要となる。

(2) 海外旅行保険

渡航先で病気になる、突然の事故に遭う可能性は少なくない。その際の治療費や損害の負担及び損害賠償等の経済的負担は全て派遣学生が負う。海外での治療費は数百万円にのぼることも多く、帰国を余儀なくされた場合の搬送費は数千万円になる場合もある。

また、ペルーでは旅行者を狙ったスリやひったくり、置き引きなどの被害が頻発している。クレジットカード付帯の海外旅行損害保険では補償が十分でないため、海外旅行保険には必ず加入し、その写しを家族へも渡すこと。

(3) 感染症に対する予防措置

①黄熱病

黄熱は、中南米やアフリカで流行し、現在でも特別は治療法はないため、非常に死亡率の高い病気である。

2013年12月現在、日本から直接ペルーへ入国する場合、予防接種は義務付けられていないが、ペルーは黄熱病のリスク国に指定されているため、予防接種を受けて行くことが望ましい。

また、ペルーから周辺国に入国するに当たっては、イエローカード（予防接種済証明書）の提示が必要である。

予防接種証明書は、接種後10日目から10年間有効である。そのため、出国の10日以上前には接種すること。

②マラリア

ペルーにはマラリアを媒介とする蚊が生息しているため、長袖の着用や虫よけスプレーなどの防止策が必要である。予防薬もあるが、渡航先によって適切な予防薬は異なるため、必ず専門医師と相談すること。

③A型肝炎

生水、氷、生肉、生野菜などから感染する可能性が高いため、食べ物や水には注意が必要である。A型肝炎のワクチンは2～4週間の間隔で2回接種することとなる。

プログラム概要

日付	時間	内容
3 / 1 8 (火)	午後	成田空港集合
3 / 1 9 (水)	未明	リマ・ホルヘチャベス空港着
	午後	オリエンテーション
3 / 2 0 (木)	午前	自己紹介及び各大学紹介
	午後	カトリカ大学キャンパスツアー
3 / 2 1 (金)	午前	日本語教室
	午後	ペルー・日本事情講義
3 / 2 2 (土)	午前	リマ市内見学
	午後	
3 / 2 3 (日)	午前	山形大学人文学部附属ナスカ研究所見学
	午後	
3 / 2 4 (月)	午前	日本語教室
	午後	日秘文化会館、日本人移住史資料館見学
3 / 2 5 (火)	午前	日本語教室
	午後	感想発表会/送別会
3 / 2 6 (水)	未明	リマ・ホルヘチャベス空港発
3 / 2 7 (木)	午後	成田空港着

※上記日程は、現地の状況等により変更になる場合があります。



参加費用について

- ・参加費用は、おおむね総額23万円となり、うち10万円を補助金として支給します。
- ・渡航前に必要な11万5千円（航空券代、借上げバス代等）は事前学習の際に徴収します。
- ・派遣決定後に辞退となった場合は、返金できませんのでご注意ください。
- ・成田空港までの交通費は、参加費用に含んでおりません。

ペルー共和国

República del Perú



概要

【ペルー共和国 (República del Perú)】

南アメリカの北西に位置する共和制国家。

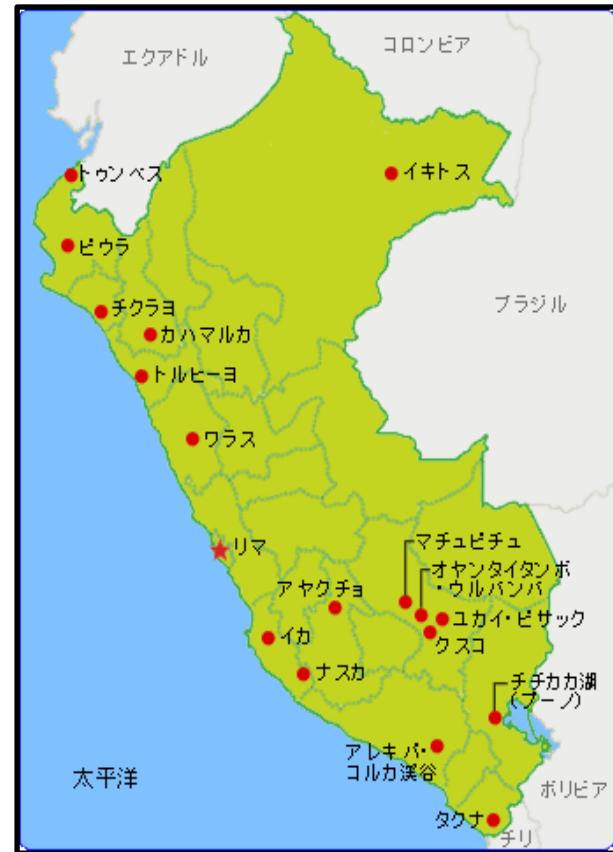
3つの地形に分けられ、砂漠が広がる沿岸部のコスタ、アンデス山脈が連なる高地のシエラ、アマゾン川流域のセルバとなっており、これらの地形に加え、コスタとシエラでは北部、中部、南部の違いがあり、それもペルーの地域性の違いとなっている。

主要公用語はスペイン語であり、その他ケチュア語、アイマラ語も公用語とされている。

紀元前から多くの古代文明が栄えており、南米最大の帝国を気付いたインカ文明の中心であった。16世紀以降は南アメリカのスペイン植民地の中心でもあったため、それら二つの文化に根をもち、その上にアフリカ系住民や近代になって移住してきたアジア系、ヨーロッパ系の諸民族の影響も受けている。

謎の空中都市マチュピチュ遺跡をはじめ、乾燥した大地に刻まれるナスカの地上絵など、いまだに多くの謎に包まれた古代文明もいくつも残されている。

アンデスの山々にこだまするフォクローレの音楽、鮮やかな民族衣装をまとった先住民の人々など、南米と言われて思い浮かべるイメージの全てがある、南米のダイジェストともいえる魅力が詰まった国である。



2012年ナスカ市に人文学部附属ナスカ研究所を開所



ペルーの国民的ダンス: マリネラ

リマ

ペルーの首都リマは、太平洋に面したコスタと呼ばれる乾燥大地に開けた大都市。ペルーの人口の約3分の1が生活する、政治・経済の中心地である。また、沿岸を流れるフンボルト海流がもたらす豊かな海産物は、水産業も盛んにしている。今なお17世紀のコロニアル時代の繁栄の様子を色濃く残すリマの旧市街は、ユネスコの世界遺産にも登録されている。リマはアルマス広場とサン・マルティン広場から広がる旧市街と、海岸沿いの新都市とに分けられる。現在の中心地である新市街のサン・イシドロ地区やミラフローレス地区には、オープンカフェやレストラン、ブランドショップ、ホテルなどが集まり、華やかな賑わいを見せている。



スペイン植民地時代の文化が残るセントロ地区



巨大ショッピングモールを有するミラフローレス地区

ローマ教皇庁立ペルー・カトリカ大学

Pontifical Catholic University of Peru



PONTIFICIA
**UNIVERSIDAD
CATOLICA**
DEL PERU



カトリカ大学は1917年にJorge Dintilhac神父(聖心修道会)により設立され、その後業績を称えて、ローマ教皇庁より「教皇庁立」の称号が授与された。

ペルー初の私立大学であり、ペルーの中でも一番の名門校として知られる。

ラテンアメリカのベスト25の大学のうちのひとつに選ばれ、国際ランキングではTOP500にランクインしたペルーで唯一の大学である。

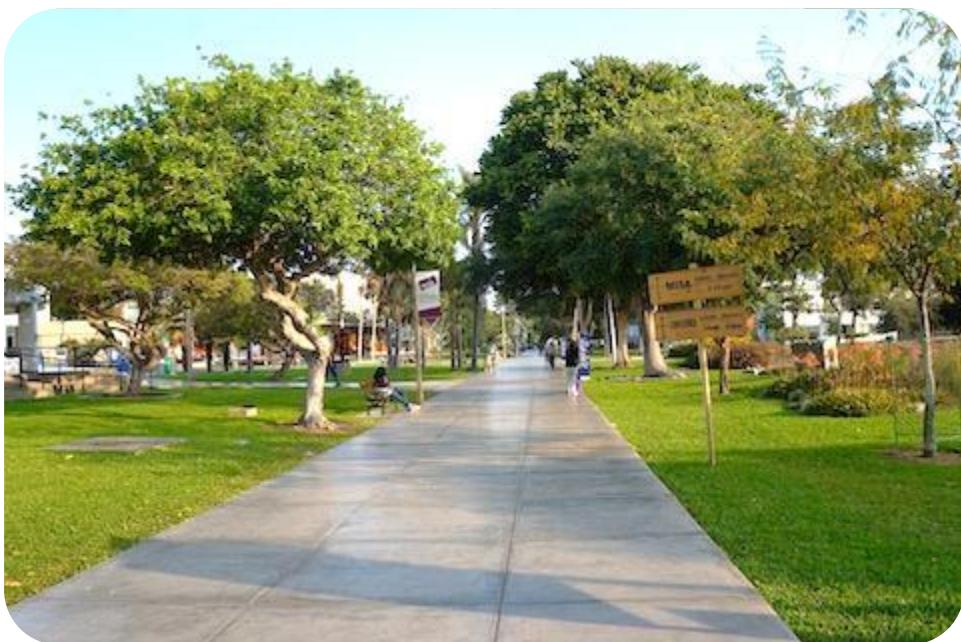
413,902㎡(約東京ドーム9個分)の広さを持つキャンパスの約半分は緑地という、自然豊かなエコキャンパス。シカヤリスにも会えることも 😊

大学内に語学センターがあり、留学生向けのスペイン語研修の他、英語教育も充実しており、PUCPに通う学生のほとんどが、英語を流暢に話す。



11学部15学科、73のマスタープログラムや16のドクタープログラムを有し、18,729名の学部学生、5,639名の修士学生、114名の博士学生と300名の留学生が在籍している。

人文学部、法学部、情報工学部はラテンアメリカでもトップレベルを誇り、なかでもPUCPのアンデス研究者は世界の学界をリードしている。



PUCP

Somos **PUCP**,
seámoslo siempre.

PUCP

Somos **PUCP**,
seámoslo siempre.

iPUCP!

Somos **PUCP**,
seámoslo siempre.

PUCP

Somos **PUCP**,
seámoslo siempre.